

国際化 TF 平成 30 年度 活動報告書

令和 2 年 4 月 6 日
TF：国際化
氏名：副委員長 山代悟

HEAD 研究会 TF の平成 30 年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目標】

「木の国際化 Glocal Timber Studies」をテーマに、森林、林業、都市木造などの広がり、国際的に、そしてローカルに発表し、議論する場をもうける。

平成 30 年度は、芝浦工業大学建築学部プロジェクトデザイン研究室と共催でシンポジウムなどを開催する。

【2. 体制】

委員長	清家清
副委員長	國廣純子
	山代悟

【3. 平成 30 年度の活動報告】

<活動履歴>

主な活動としては、「木の国際化 Glocal Timber Studies」と題して、二回のシンポジウムを開催した。

令和 2 年 1 月 24 日「木の国際化 Glocal Timber Studies 05 / 辻靖彦 / 青島啓太

@芝浦工業大学豊洲キャンパス 研究棟

令和 2 年 1 月 24 日「木の国際化 Glocal Timber Studies 06 / 安達広幸 / 海老澤渉 / 十文字将敏」

@芝浦工業大学豊洲キャンパス 研究棟

日本と世界の林業と建築の関係を巡って議論した平成 29 年度に続き、平成 30 年度は日本国内で実現に弾みがついている中大規模木造の実施プロジェクトについて、日本での先進的な取り組みについてお話をうかがいました。

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	国際化TF	作成日	2020/4/6	記入者名	山代悟
委員長	清家剛	副委員長 (会計担当)	國廣純子	副委員長	山代悟
		副委員長	青島啓太	副委員長	川中彰平
		副委員長		副委員長	
		副委員長		副委員長	
		副委員長		副委員長	
年間 テーマ	木の国際化と、場づくりの国際化				
事業 計 画 書	<p>本年度は「木の国際化」をメインテーマに行う4年目となる。木は極めてローカルな商品であると同時に、国際的にも流通する商品でもある。近年は木材の新しい建築への利用が積極的に図られているだけでなく、バイオマス発電など地域を支えるエネルギーとして復活しようという動きもある。こうした新しい木をめぐる状況を踏まえ、日本の地域の現状を正しく把握すると同時に海外での状況を視野に入れることで、より発展的な議論と提案を行っていくことに取り組む。</p>				
	<p>また、新企画としてまちづくりの手法や人材の国際化、場の作り方や運営の仕方の国際化を考える「ばづくりの国際化(仮)」をテーマとする新シリーズもスタートする予定である。</p>				
	<p>これまでは東京の会場を拠点に実施してきたが、COVID-19感染拡大対策のためにも一般化してきた、zoomなどのビデオ会議の手法を活用し、プレゼンター、参加者共に、日本の各地域、あるいは海外からの参加もえて活動したいと考えている。</p>				
収 支 予 算 書	収 入	TF分配金			52,000
		収入合計			52,000
	支 出	謝金			30,000
		会場費、備品借用			22,000
	支出合計			52,000	
収 支			0		

建材部品 TF 平成 31(令和元)年度 活動報告書

令和 2 年 2 月 19 日
建材部品 T F
委員長 山本想太郎

HEAD 研究会 建材部品 TF の平成 31(令和元)年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目標】

このタスクフォースは、HEAD 研究会の主要な研究テーマである「建築と部品の情報新回路構築」にもとづいたものであり、最終的にはそのような「システム」の構築を目標としています。また情報発信の発展形として、メーカーとのコラボレーションによる製品開発も視野に入れていきます。

【2. 体制】

委員長	山本想太郎
副委員長	宮崎浩
	中村研一
	明石繁
	村上晶子
	鈴木弘樹
	光岡賢一 → 市原哲人（途中交代）

【3. 平成 31(令和元)年度の活動報告】

2019 年度は毎月一回(イベント実施の 11 月を除く)の定例研究会を開催し、HEAD 研究会委員、会員による情報収集および意見交換を行いました。

1)本年度は月例 TF の企画を AGC 市原哲人副委員長(当初の光岡氏から AGC の社内人事にて交代)が担当し、ゲストの方によるレクチャーなど、多角的に情報収集を行いました。

2)旧「HEAD ベストセレクション賞」が継承された、一般社団法人日本能率協会の主催による「みらいのたね賞」に企画協力しました。同イベントには HEAD 研究会 松永理事長、松村副理事長も参画しました。

3)TF 企画ツアーとして、AGC 株式会社 鹿島工場の見学バスツアーを行いました。

<平成 31(令和元)年度 活動履歴>

	日時	場所	プレゼンテーション
第 104 回 定例会	2019 年 4 月 17 日 (水) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	参加者全員によるショートプレゼンテーション
第 105 回 定例会	5 月 14 日 (火) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	千葉大学 鈴木弘樹 「メキシコに 1 年いて考えたこと」
第 106 回 定例会	6 月 7 日 (金) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	AGC 株式会社 市原哲人 「アジア・パシフィックの建築用ガラス 裏事情」
第 107 回 定例会	7 月 2 日 (火) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	山本想太郎 「建材の可能性について」
第 108 回 定例会	8 月 5 日 (月) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	村上晶子 「イグナチオ教会現場の秘密」
第 109 回 定例会	9 月 11 日 (水) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	YKK AP 株式会社 多田季也 「建築物省エネ法の改正」
第 110 回 定例会	10 月 2 日 (水) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	株式会社 LIXIL 榎泰将 「篠島の集落構成について」
見学会	10 月 28 日 (月) 10:00～21:00	東京駅～AGC 鹿島 工場	AGC 株式会社 鹿島工場 見学バスツアー
イベント	11 月 14 日 (木) 14:00～15:45	東京ビックサイト 西展示棟	Japan Home & Building Show 2019 「みらいのたね賞」シンポジウム ゲスト選考委員：原田真宏様、永山祐子様／選考委員：松永安光、山本想太郎／挨拶：松村秀一／応援スピーチ：国土交通省住宅局住宅生産課建築環境企画室長 成田潤也様、経済産業省製造産業局生活製品課住宅産業室長 縄田俊之様
第 111 回 定例会	12 月 4 日 (水) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	山本想太郎「みらいのたね賞」報告 木島千嘉「近作等について」
第 112 回 定例会	2020 年 1 月 8 日 (水) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	吉野かわせみ社中 高橋様 「吉野プレミアムシート」「吉野杉木ロスリットパネル」(みらいのたね賞受賞)
第 113 回 定例会	2 月 12 日 (水) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda B111	AGC 株式会社 河合洋平 「ガラスのアート性と新技術」
第 114 回 定例会	3 月 13 日 (金) 18:00～20:00	3331Arts Chiyoda #309 AS (予定)	新建新聞社 盛山様他 「まちかどシート」(みらいのたね賞受賞)

(以上)

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	建材部品TF	作成日	2020-2-21	記入者名	山本想太郎
委員長	山本想太郎	副委員長 (会計担当)	山本想太郎	副委員長	宮崎浩
		副委員長	鈴木弘樹(千葉大学)	副委員長	村上晶子(明星大学)
		副委員長	中村研一(中部大学)	副委員長	明石繁(アイジー工業)
		副委員長	磯永聖次(タキロン)	副委員長	
		副委員長		副委員長	
年間 テーマ	部品・建材に関する情報収集と発信				
事業 計画 書	①定例研究会の開催 ・基本的に毎月1回、18時から開催。				
	②製品情報の収集 ・会員・ゲストによるプレゼンテーション ・ショールーム・工場などの見学会				
	③すぐれた建材の情報発信 ・外部主催の建材賞への協力				
収 支 予 算 書	収 入	TF分配金			206,000
		収入合計			206,000
	支 出	月例TF、ゲスト講師謝礼 5000円×10回			50,000
		月例TF、会場費 4000円×11回			44,000
		月例TF、見学会等雑経費			28,000
TFサポートスタッフ人件費 7000円×12回			84,000		
支出合計			206,000		
収 支			0		

情報プラットフォーム TF 令和 1 年度 活動報告書

令和 2 年 3 月 11 日
TF：情報プラットフォーム
氏名：新堀 学

HEAD 研究会情報プラットフォーム TF の令和 1 年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目標】

1. 「まち会社（仮）」という事業体とは
仮設的なプロジェクトと、社会のフレームにあてはめられることを前提とした「会社法人」との間
で、地域をリソースとして地域に価値を還元する持続的なエンジンとなるような事業体を実現するためには
どうすればよいのか。
「まち会社（仮）」が、これからのまちづくりのプラットフォームとなる。
そのありようとなりたちを明らかにし、各地で行われる事業の設計方法と評価軸を考える。

2. 「まち会社（仮）」に必要な情報プラットフォーム研究
自立する事業体を設計するために必要なプラットフォームを考える
事業運営に係る情報サービス事業（名簿、経理、広報、ほか）
建築情報ツール（3Dスキャンによる測量、ドローン撮影調査、BIMによる情報統合、ほか）
マッチングサービス、資金調達－クラウドファウンダー、政策投資銀行系、地銀系など
受注プラットフォームなどについて、要件を明らかにする

【2. 体制】

委員長	新堀 学
副委員長	内山博文
	小林浩文

【3. 平成 30 年度の活動報告】

<活動履歴>

- ・事業会議：4, 5, 6 月に開催、それぞれが考える「プラットフォーム」「まち会社」について
- ・調査計画「稼ぐまちづくり 100 選」の 4 年後のフォローアップ調査－本当に稼げているまちづくりはどこか。について検討。活動資金の調達のため、諸団体にヒアリング。（資金不足により中断、協力先を継続アプローチ中）
- ・トライした、福岡県プロポーザル 落選（空き家公共空間のマッチングサービスとフォローアップの事業プランで応募「ふくおかリノベーションポリス」）
- ・結果を性急に求めるのではなく、コミットメントメンバーを固めることも含め、足腰を鍛えることが必要だった。→次年度に向けて継続的に活動予定。

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	情報プラットフォームTF	作成日	2020/2/18	記入者名	新堀 学
委員長	新堀学	副委員長 (会計担当)		副委員長	内山博文
		副委員長		副委員長	
		副委員長		副委員長	
		副委員長		副委員長	
		副委員長		副委員長	
年間 テーマ	まちづくり、まちの仕事のこれからのプラットフォームをつくる				
事業 計画 書	<p>基本的方向性は昨年度より持続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法や論理の足腰を鍛えるために、サロンの場でメンバー間の情報交換とレベルアップを目指し、その先に見える「プラットフォーム」のカタチを明らかにしていくという活動方針です。 ・大きな問い「プラットフォームは不可欠であり続けるものか、それとも卒業するものなのか？」 ・意識の近いリノベーションTFとのジョイントを考えています。(検討中) —「設計事務所の新しいかたち」を考えるリノベーションTFの方向性と、「まち会社(仮)」という、地域空間の経済活動のエンジン(事業体)を考え「そのためのプラットフォーム」をつくらうとする情報プラットフォームTFは、トピック、問題意識、方法論を重ねることができるのではないか —具体的には、セミナー、レクチャー形式のセッションシリーズを企画して、セミオープンな形で開催する —なにか双方のメンバー有志が参加する共同プロジェクトが企画できれば、実施する ・場所: incline(渋谷→白金) (渋谷Qs) (京橋シティアポトーキョー)ほか ・テーマ想定(随時追加) —プラットフォーム、事業体の金融(資金) —プラットフォーム、事業体の人事、 —職能のキャリアパス —事業体の持続戦略(バランスシート設計、およびその裏側) —場所、建築のレバレッジ設計 —デットの資金とエクイティ的資金 —領域の多言語化 				
収 支 予 算 書	収 入	セミナーシリーズ(10回×30,000円)			300,000
		分配金			10,000
	収入合計				310,000
	支 出	会場費			200,000
謝礼				100,000	
通信費				10,000	
支出合計				310,000	
収 支				0	

リノベーションTF 平成 31 年度 活動報告書

令和 2 年 6 月 15 日
リノベーションTF
宮崎 晃吉

HEAD 研究会 TF の平成 31 年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目的】

リノベーションを建築関係者だけの手法ではなく、広く社会に浸透させることで、活用されていない社会資産を蘇らせることを目的とします。

【2. 体制】

委員長	宮崎晃吉
副委員長	藤田雄介
	佐久間悠
	青木公隆
	栗生はるか

【3. 平成 31 年度の活動報告】

31 年度は、個々の活動がメインとなり、定例以外の TF 全体でのイベント等はあまり積極的に行なえませんでした。「まち会社」に関わる活動や CityLabTokyo とのアライアンスについてなど 2 年度にむけての準備期間となりました。

<活動履歴>

定例会議およびイベント

2019 年

5 月 29 日 定例会議 @3331
6 月 24 日 定例会議 @3331
7 月 24 日 定例会議 @3331
1 月 20 日 見学会 @西日暮里スクランブル

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	リノベーションTF	作成日	2020/3/12	記入者名	宮崎晃吉
委員長	宮崎晃吉	副委員長 (会計担当)	青木公隆	副委員長	
年間 テーマ					
事業 計 画 書	①定例会議の開催 基本的に毎月1回 19時から				
収 支 予 算 書	収 入	HEAD研究会よりTF割当予算			42,000
		公開講座売上 1000円x50名x3回			150,000
	収入合計				192,000
	支 出	公開講座各回ゲスト謝礼金 30,000円x1名x3回			90,000
広報費用			102,000		
支出合計				192,000	
収 支				0	

ビルダーTF 令和元年度 活動報告書

令和2年3月31日
TF：ビルダー
氏名：権藤智之

HEAD 研究会ビルダーTF の令和元年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目標】

このタスクフォースは、HEAD 研究会の主要趣旨でもある「業態横断的な議論・研究の場」、すなわち地域工務店と部品生産者、設計者、更には地域の住まい手や事業主等との間にシナジー効果を持つ新たなコミュニケーション回路を確立する「場」として存在することで、地域工務店が時代にふさわしい業態へ進化・発展できるよう促すことを目的とします。

業態横断的活動を戦略的に実施することにより地域工務店全体の持続性・社会的位置づけの向上や、若手の活躍の場が増えることなどを期待いたします。

【2. 体制】

委員長	権藤智之
副委員長	瀬戸ひふ美
	相羽健太郎
	菰田誠
	鈴木晴之
	東国肇

【3. 平成30年度の活動報告】

委員長の交代もあり、講義＋議論形式を繰り返すことにより現状の問題点を明確化し、今後の活動内容を絞り込んだ。具体的には講義＋議論の例会を隔月で6回実施した。木造住宅業界、工務店を対象としたセミナー等は既に多く存在していること、性能による差別化が徐々に難しくなる中で次の方向性を探る時期であることも鑑み、可能な限り他分野における技術の変化等を取り上げることで、各社に応用可能な知見の醸成を図った。

5月22日（水） 戦後の住宅生産の変遷
7月12日（金） 機械化
9月19日（木） 部品化
11月21日（木） 情報化
1月23日（木） 多様化
3月19日（木） 高層化

2020年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	TF5 (ビルダーTF)	作成日	2020/3/30	記入者名	権藤智之
幹事	伊佐裕(伊佐ホームズ)	監事	迎川利夫(相羽建設)	委員長	権藤智之(東京大学)
副委員長	相羽健太郎(相羽建設)	副委員長	東国肇(伊佐ホームズ)	副委員長	菰田誠(こもだ建総)
副委員長	鈴木晴之(くらし工房大和)	副委員長	瀬戸ひふ美(瀬戸建設)	副委員長	
年 間 テ ー マ	リフォーム				
事 業 計 画 書	2019年度の議論の中で、もう1度リフォームを考え直すべきという意見の一致を見た。2020年度は工務店・木造在来構法住宅の隣接分野のリフォーム事例について見学・特別講義等を実施し、現在のリフォームの論点の明確化や工務店が通常業務に取り込み可能な新たなリフォームのかたちについて議論を行いたい。				
	見学会や特別講義を年間4回ほど予定している(6月、9月、12月、3月など)。 見学会例：スクエアJS(日本総合住生活) UR都市機構の住宅の管理を主として行っているJSの研究所を見学する。特にリノチョイスと呼ばれるJS開発のリフォーム用住宅部品について、実物や施行例を見学するとともに、木造在来構法住宅への応用を検討する。 特別講義例：中村健太郎(モクチン企画) 木賃アパート用の住宅部品開発やリノベ設計を行うモクチン企画の中村健太郎氏に、モクチン企画の事業内容や工務店との共同可能性について講義してもらおう。現在行っている木賃アパートのリノベを行う不動産管理会社や工務店へのインタビュー調査についても報告してもらおう。 他見学会、特別講義は検討中。				
収 支 予 算 書	収 入	会員収入	98,000		
		収入合計			98,000
	支 出	見学時の謝礼・手土産等	20,000		
		特別講義謝金	40,000		
		会場費	20,000		
支出合計			80,000		
収 支			18,000		

DIY を目玉にした賃貸募集における部屋を工夫した部屋毎に見せていただき、特別に提供頂いた資料で実感する大変豪華な企画でした。本来なら、企業秘密である工夫を惜しげもなく伊部副委員長のご厚意で公開。参加者 21 名

- ・第3回 たまり場：8月26日 アーツ千代田 3331 にて
安藤勝信さんがモデレーター「自治体 3.0 - 子育て、まちづくり、市民と行政の関係性、暮らしの中のコミュニティ、世田谷区ではいまどうなのか」と題し、松田妙子氏、白石剛大氏、山中真奈氏、武井浩三氏の 4 人の世田谷区活動家を迎え、世田谷区で素敵な暮らしを手に入れる貴重で知見に満ちた奮闘話を聞かせていただきました。参加者 34 名
- ・第4回 たまり場：アーツ千代田 3331 にて
高木宗房副委員長の主催、日本大学理工学部まちづくり科の学生約 20 名を（6 チーム）を迎え、まちづくりの企画提案をプレゼンしていただき、それについてそれぞれ、交歓致しました。参加者約 40 名
- ・第5回 たまり場：10月8日 アーツ千代田 3331 にて
永井ゆかり副委員長の「“令和の時代の賃貸業界”についてみんなで語ろう」業界のメディアの立場から話題提供を受ける。参加者 30 名、内回発日大生 4 名。親子参加 4 名を含む。
- ・第6回 たまり場：1月19日 アーツ千代田 3331 にて
エネルギーTF 副委員長である丸橋氏主催「みんなが幸せになる空室対策」様々な側面から断熱の意味を説明。参加者 15 名。
- ・第7回 たまり場：12月2日 アーツ千代田 3331 にて
生田目事務局長主催「住宅の温熱性能と居住者の意識」
インテリアアーキテクト、デザインディレクター橘田洋子氏講師
温熱環境の理解を深める。生田目事務局長から「不動産ビジョン 2030」の見方について 18 名参加

② 不動産事業視察ツアー

福岡賃貸 DIY リノベウィーク 2018 に参加 吉原勝巳オフィシャルサポート
令和 1 年 11 月 8 日・9 日 参加者：5 名

③ 新年会（第 8 回たまり場）開催

1 月 24 日 アーツ千代田 3331 メンバーの活動報告 参加者：18 名
特別ゲスト：東京ビエンナーレ 2020 開催メンバー参加

④ 副委員長ごとの事業報告

伊部さん

■活動実績

- ・令和元年 5 月 27 日 全国賃貸住宅新聞
DIY 可賃貸のガイドライン公開 取材記事掲載

- ・令和元年 6 月 13 日 SUUMO ジャーナル (WEB)
“賃貸住宅で DIY” これで安心。注意点や知識まとめた「賃貸 DIY ガイドライン」が必読 寄稿
- ・令和元年 7 月：日本経済新聞コラム：
「住まい手の自由と大家の安心を紡ぐ 賃貸DIYガイドライン」
- ・令和元年 8 月：東京人 9 月号 コラム「壁に穴を開ける」(執筆：伊部尚子)
- ・令和元年 11 月：インテリアビジネスニュース・平成 30 年 6 月 13 日 賃貸住宅フェア2018 東京 登壇
タイトル：今こそ知っておきたい賃貸DIYガイドライン

■現在のメンバー

相澤 毅	株式会社 plan-A
池本 洋一	株式会社リクルート住まいカンパニー
伊部 尚子	株式会社ハウスメイトパートナーズ
尾谷 恒治	早稲田リーガルコモンズ法律事務所
佐久間 悠	株式会社建築再構企画
塩見 紀昭	明和住販流通センター
新堀 学	株式会社新堀アトリエ一級建築士事務所
橋本 樹宜	協永ソフトエンジニアリング株式会社
宮部 浩幸	近畿大学

■活動協力サポーター

坂根 工博	国土交通省大臣官房審議官
川合 紀子	国土交通省住宅局住宅総合整備課賃貸住宅対策室長
齊藤 広子	横浜市立大学国際総合科学部教授
坂田 夏水	株式会社夏水組
矢部 智仁	ハイアス・アンド・カンパニー株式会社

太田垣さん

- ・2020 年 1 月 21 日 明治記念館曙の間にて「賃貸業界における高齢者問題を考える」シンポジウム開催 一般参加費 1 万円 (HEAD 会員無料)
参加者 119 名 (HEAD 会員以外 87 名)
- ・開催収益より全国宅地建物取引業協会への献本
- ・開催収益より全日本管理業協会への献本

(以上)

不動産マネージメント TF 委員長 橋本樹宜

令和二年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	不動産マネージメントTF	作成日	令和2年年6月	記入者名	橋本樹宜
委員長	橋本樹宜	副委員長	池田 峰	副委員長	永井ゆかり
副委員長	高木宗房	副委員長	連勇太郎	副委員長	上野典行
副委員長	太田垣章子	副委員長	伊部尚子	副委員長	久保有美
事務局長	生田目裕				
事務局長補佐	倉内敬一	事務局長補佐	岡崎卓也	広 報	河原大悟
年間テーマ	コロナ後の不動産業界のあり方を考えよう				
事業計画書	①副委員長主催による遠隔たまり場の開催 業界で抱える課題や社会に影響を及ぼすニュースを取り上げ、議論・発表の場をつくる。				
	②副委員長が培った知見をフォーラム開催等にて公表する。				
	③不動産業者として見ておくべき現場視察会の開催				
収支予算書	収 入	フォーラム開催	200,000		
		研修会費収入	100,000		
		講習会会費収入	100,000		
		HEAD本会計補助金	230,000		
		繰越金	0		
	収入合計			630,000	
	支 出	フォーラム開催費	100,000		
たまり場開催費		200,000			
賃貸DIYガイドライン事業推進費		200,000			
予備費		130,000			
支出合計			630,000		
収 支			0		

HEAD 研究会、タスクフォース 8「ライフスタイル TF」の 2019 年度における活動について、以下の通り報告いたします。

1. タスクフォースの目的

このタスクフォースは、「ハコ（建築）を造ることから暮らしを彩ることへシフトしよう」という思想の基、豊かなライフスタイルを彩る新しい職能と事業システムの構築を目的としています。

また新しい提言や様々な職能を繋ぐネットワーク構築の可能性を探るとともに、事業システム構築に向けて研究していきます。

2. 体制

2019 年度のタスクフォース 8 の運営は、下記のメンバーを中心に実施しました。（敬称略）

委員長 : 三沢亮一（ミサワアソシエイツ）
副委員長：藤原大輔（Carpe Diem）
副委員長：海野一希（三井物産）
副委員長：栗原千尋（市萬）
副委員長：望月心（ザ・トールマン・コレクション）
副委員長：栗城恒志（税理士法人山田&パートナーズ）
副委員長：勝村亜紀子（ルミナベッラ）
議事録作成：参加会員による持ち回り制

3. 研究会の開催

2019 年度は、毎月の定例研究会とは 2017 年から実施しておりますライフスタイル塾の第 3 期を開催することができました。今期は定期的で開催する本塾の第 3 期第 1 回目を 2019 年 5 月 15 日に開始し全 5 回の塾を終え、12 月 11 日には修了式とライフスタイルコーディネーターの認定式を行うことができました。また、新たな試みとして企業へお伺いして開催する出張塾を 3 月 20 日開催できました。それに加えてアート TF と共催したオープン塾を 9 月 20 日に開催しました。

定例研究会では HEAD 研究会委員、会員による情報収集および意見交換、ライフスタイル塾に関する打ち合わせを行いました。

研究会の主な内容は以下の通りです。

① 情報の収集（定例会）

・毎月定例会を開催し、ライフスタイル塾の準備や内容について打ち合わせを行いました。

② ライフスタイル塾

・「ライフスタイル塾」（全 5 回）を開催中です。（定員 10 名、単科での参加者約 5 名）

・ライフスタイル塾企画主旨（三沢亮一塾長による）：

近年、少子化を背景に建設不動産業界の斜陽化が懸念されています。すでに供給が満たされつつある建物としての「ハコ」ではなく、「コト」つまり、心の在り方の価値が問い直されています。重要なことは、新築でもリノベーションでもなく、街や空間を活かしながら私たちがどのように生活を楽しむかということ。

にもかかわらず、今までそのフィールドを掘り下げたビジネスが存在していませんでした。私たちはこの空白に着目し「豊かなライフスタイル」を実現するための多様なビジネスの研究と人材の輩出を目的とします。まずは十分な対応力と可能性を秘めたハイグレードな領域から考察を始めたいと思います。

・ライフスタイル塾の内容

新しいビジネスフィールドを開拓する方々のために、より実践的であることを目指します。各講師がライフスタイルの話を中心に、今まで経験されてきたと、これから取り組むべきことなどの話題を展開し、参加者の方々に様々なヒントとノウハウを提供します。各界を代表する講師と限られた人数の参加者で、他では得ることのできない、さらに、ビジネスを確立させるためのインキュベーションの場となることを目指します。

・ライフスタイル塾の開催日時

第3期

第1回（5月15日）

「豊かな居住空間とは」

講師：三沢亮一（株式会社ミサワアソシエイツ）

「体と心とライフスタイル」

講師：古澤海（ライザップ株式会社）

第2回（6月26日）

「住空間 2020 現在のトレンドから透視する」

講師：桐山登士樹（株式会社 TRUNK ディレクター）

第3回（8月28日）

「ライフスタイルとしての大学」

講師：亀嶋庸一（成蹊学園学園長）

第4回（10月16日）

「ベルギー 豊かなライフスタイル」

講師：平田倫子（TISTOU 株式会社 代表取締役社長）

第5回（11月27日）

「海外から見た日本」

講師：ファビアン・クレール（在日スイス大使館一等書記官）

「海外から見た日本」

講師：沼能功（リージェンシーグループ株式会社 代表取締役会長）

オープン塾（9月20日）

「生活空間とアート 暮らしを彩るアートの楽しみ方」

講師：山本豊津（東京画廊）

講師：岡田勉（株式会社ワコールアートセンター）

4. 2019年度の総括と2020年度の事業について

① コア会議の開催

- ・この会については常に一定の成果・評価があり、今後も継続したいと思います。
 - ・幹事担当は副委員長藤原大輔
 - ・基本的に毎月1回開催予定
 - ・場所はミサワアソシエイツとする。
 - ・内容：定例会の準備、ライフスタイル塾の本塾・出張塾・オープン塾の企画運営準備、イベントの企画等

② 定例会の開催

- ・2020年度はwebも利用し、隔月でwebと集まりを交互に実施したいと思います。

③ ライフスタイル塾

- ・三沢委員長を塾長としてライフスタイル塾を定期的で開催する。
『モノを売る会社からコトを提案する会社への変革をお手伝いする塾』として、第4期は5月から開催予定。
- ・場所は基本的にはミサワアソシエイツで行う予定ですが、講師と相談して実施スタイルに合わせて都度検討する予定です。
- ・塾後のミーティングによりTF内に多くの知見を残し、新しいビジネス創出へと繋げる予定です。

④ ライフスタイルコーディネーター制度

- ・第1期で5名、第2期で7名、第3期では7名に修了証を授与いたしました。
今後はライフスタイルコーディネーターと企業のトップとの双方の連携を深められるようにしていくつもりです。

⑤ ライフスタイルNet

- ・将来的には情報発信のためプラットフォームを作る予定です。

⑥ その他

- ・TFとして上記以外でも収益事業になり得るものがあれば、随時提案を会員に求めていきます。また、TFの活性化のため新規企画は常に検討していく予定です。

6. 来年度のTF9運営体制について

委員長：三沢亮一（ミサワアソシエイツ）

副委員長：藤原大輔（Carpe Diem）

副委員長：海野一希（三井物産）

副委員長：栗原千尋（市萬）

副委員長：栗城恒志（税理士法人山田&パートナーズ）

副委員長：勝村亜紀子（ルミナベッラ）

議事録作成：参加会員による持ち回り制

7. 2019年度 ライフスタイルタスクフォース 年次活動記録表

回・月日	開催場所	項目	参加者	その他・備考
3月20日(水)	イクタ	L S塾出張塾	25名	
4月3日(水)	ミサワアソシエイツ	コア会議	8名	
4月17日(木)	ミサワアソシエイツ	定例会議	10名	
5月8日(水)	ミサワアソシエイツ	コア会議	7名	
5月15日(水)	ミサワアソシエイツ	L S塾第3期第1回	25名	
6月5日(土)	ミサワアソシエイツ	コア会議	8名	
6月26日(水)	ミサワアソシエイツ	L S塾第3期第2回	25名	
7月17日(水)	ミサワアソシエイツ	定例会議	10名	
8月7日(木)	ミサワアソシエイツ	定例会議	6名	
8月28日(水)	ミサワアソシエイツ	L S塾第3期第3回	25名	
9月4日(火)	ミサワアソシエイツ	定例会議	10名	
9月20日(金)	ASJ	オープン塾	80名	
10月2日(木)	ミサワアソシエイツ	定例会議	6名	
10月16日(水)	ミサワアソシエイツ	L S塾第3期第4回	25名	
11月6日(木)	ミサワアソシエイツ	定例会議	6名	
11月27日(水)	ミサワアソシエイツ	LS塾第3期第5回	25名	
12月4日(水)	ミサワアソシエイツ	定例会議ウェブ	8名	
12月11日(水)	ミサワアソシエイツ	L S塾第3期修了式	25名	
1月17日(木)	ミサワアソシエイツ	定例会議	8名	
2月19日(金)	ミサワアソシエイツ	定例会議	7名	
3月11日(金)	ミサワアソシエイツ	定例会議	名	

(以上)

令和2度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	ライフスタイルTF	作成日	2020/3/16	記入者名	藤原大輔
委員長	三沢亮一	副委員長 (会計担当)	栗城恒志	副委員長	栗原千尋
副委員長	藤原大輔	副委員長	勝村亜紀子	副委員長	海野一希
年間 テーマ	本年度のライフスタイル塾のテーマを『モノを売る会社からコトを提案する会社への変革をお手伝いする塾』とし、多様なライフスタイルの要望に応えられる人材を育成するための体制づくりを行う。				
事業 計画 画 書	<p>①定例会の開催</p> <p>月に1度程度は実施する予定です。ここではライフスタイル塾の準備や内容の打ち合わせだけではなく、新規メンバーを獲得するためのイベントの企画、メンバー同士の情報交換や事業のコラボレーションを実現させることを目的としています。</p>				
	<p>②ライフスタイル塾 (LS塾) の定期開催</p> <p>本年度はライフスタイル塾を定期的に開催する本塾の内容をさらに進化させるべく、本塾に力を入れたいと思います。その合間に企業へお伺いして開催する出張塾を実施する機会があれば実施を検討いたします。</p>				
	<p>③オープン塾の開催</p> <p>本年度はアートフェアへの協賛ということで準備をしておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から3月19日～22日に予定をしておりましたアートフェアが中止となりました。今回準備した内容は、どこかの機会に生かしたいと思います。</p>				
	<p>④ライフスタイルコーディネーターの価値向上</p> <p>ライフスタイルコーディネーターが増える中、今後は資格者が継続的に学習できる機会や交流できる場を作り、豊かなライフスタイルとは何かを研究し、個々人が求めるライフスタイルを実現するためのサポートができるライフスタイルコーディネーターの価値を向上させられるよう努めたいと思います。</p>				
収 入	HEAD研究会からの分担金			36,000	
	収入合計			36,000	
支 出	消耗品費			10,000	
	通信費			5,000	
	支払手数料			5,000	
	会議費			6,000	
	交通費精算			10,000	
支出合計			36,000		
収 支			0		

アート TF 2019 年度(令和元年度) 活動報告書

2020 年 3 月 31 日

アート T F 委員長

氏名 山本圭介

HEAD 研究会 アート TF の 2019 年度における活動について、以下の通り報告いたします。

【1. 活動目標】

アート・タスクフォースは、建築とアートを結び合わせるプラットフォームをつくることを目的とします。今日の生活環境においては、機能の充足を越えた新しい建築と人の関係が求められています。建築とアートに関わる多くの分野、多くの人たちの参集を図り、新たな可能性を探り、活動の機会をつくり出すことを目指します。2019年度のアート・タスクフォースのテーマは、「生活空間とアート」としました。

【2. 体制】

2019 年度のアート・タスクフォースの活動は、HEAD 研究会の以下のメンバーによって行われました。

委員長	山本圭介
副委員長	

【3. 2019 年度の活動報告】

- ・会員による定例会議・懇親会
- ・公開ミーティングの企画・開催
- ・運営体制の検討
- ・他の TF とのコラボレーション

<活動履歴>

時 期	活動内容
2019年04月02日	協力TF 打合せ (ライフスタイル TF 藤原大輔氏)
2019年04月07日	第4回公開シンポジウム「いけばなと空間」第3回打合せ
2019年05月01日	第4回公開シンポジウム「いけばなと空間」第4回打合せ
2019年05月14日	ライフスタイル TF との共催シンポジウム企画打合せ
2019年06月02日	第4回公開シンポジウム「いけばなと空間」開催
2019年06月26日	ライフスタイル塾 定例会参加
2019年07月01日	ライフスタイル TF との共催シンポジウム企画第2回打合せ
2019年09月20日	ライフスタイル TF との共催シンポジウム「生活空間とアート」開催
2019年10月	アートTF 運営打合せ
2020年02月	アートTF 運営打合せ

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	アートTF	作成日	2020/3/31	記入者名	山本圭介
委員長	山本圭介	副委員長		副委員長	
年間テーマ	生活空間とアート				
事業計画書	①定例ミーティングの開催				
	②日常生活の中のアート情報の収集及び発信 ・会員やゲストによる例会でのプレゼンテーション ・連続シンポジウムの開催による「生活空間とアート」情報の発信				
	③アート情報データベースの作成 ・建築家のためのアート情報の収集・データベース化 ・建築エンドユーザーのためのアート情報の収集・データベース化				
収支予算書	収入	シンポジウム会費¥20,000×4回=¥80,000 (1回あたり会員¥500×20人 非会員¥1,000×10人)			80,000
		本部分配金			2,000
	収入合計				82,000
	支出	会場費¥10,000×4回			40,000
講師車代¥10,000×4回			40,000		
雑費			2,000		
支出合計				82,000	
収支				0	

エネルギーTF 平成 31 年度 活動報告書

令和 2 年 3 月 11 日

TF：エネルギー

氏名 丸橋浩/デザインオー建築事務所

HEAD 研究会 TF の平成 31 年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目標】

暮らしとエネルギーの密接な関係を多くの方と共有する場としてエネルギーTF を立ち上げました。建築とエネルギーのことを考えるというとても大切で面白いことを、専門分野、業界や一般の方の枠を問わず情報発信しビジネスにするための場です。それを実践するべく、4つのサブTF（1:マンション大規模改修 2:制度改革 3:エネルギー建築デザイン 4:セルフリノベ）を作り活動しています。

【2. 体制】

委員長	竹内昌義
副委員長	丸橋浩、大川三枝子、相澤佳代子
	石井健、中田理恵、内山章
	大出達弘、長瀬徳之、

【3. 平成 31 年度の活動報告】

<活動履歴>

時期	活動内容
平成 29 年 5 月	定例ミーティング
7 月	定例ミーティング
8 月	定例ミーティング
10 月	定例ミーティング 2 回
11 月	定例ミーティング、タイニーハウスフェスティバル(共催)
12 月	定例ミーティング
1 月	定例ミーティング
2 月	定例ミーティング、断熱展延期

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	エネルギーTF	作成日	2020/3/8	記入者名	丸橋浩
委員長	竹内昌義	副委員長 (会計担当)	相澤佳代子	副委員長	丸橋浩
		副委員長	大川三枝子	副委員長	石井健
		副委員長	内山章	副委員長	中田理恵
		副委員長	大出達弘	副委員長	長瀬徳之
年間 テーマ	エネルギーと建築の身近な関係を専門分野、業界や一般の方の枠を問わず「情報発信しビジネスにする場づくり」と新たなエネルギー会社設立の実行と運営				
事業 計 画 書	展覧会&トークイベント開催:1回断熱展、シンポジウムの開催:2回、断熱ワークショップ開催:1回、				
	各グループによる活動				
	勉強会と情報発信、エネルギーツアーの実施:1回				
	新規会員獲得を目的としたオープントーク、映画上映など				
収 支 予 算 書	収 入	シンポジウム参加費 等 160名×2,850=456,000			456,000
		セミナー参加費 30名×2,000=60,000×2回			120,000
		展覧会 参加費および協賛金			1,600,000
		TF分配金			118,000
	収入合計				2,294,000
	支 出	展覧会&トークイベント会場費ほか経費			2,074,000
		セミナー経費(60,000×2回)			120,000
通信費			50,000		
雑費			50,000		
支出合計				2,294,000	
収 支				0	

フロンティア TF 平成 30 年度 活動報告書

令和 2 年 3 月 11 日
フロンティア T F
荻野高弘

HEAD 研究会フロンティア TF の平成 29 年度における活動について、以下の通りご報告いたします。

【1. 活動目標】

大変革期を迎えている建築とその周辺産業の中で、建築に携わる若い人、建築を学ぶ学生には、これから先、どうやって新しい活躍のフィールドを開拓できるのか。フロンティア TF は、時代の最前線でものごとを切り開く人達と一緒に、これからの社会について話し合う、自由闊達に議論するための場です。私たちは、主に 30 代までの世代を中心に、HEAD 研究会のフロンティアラインを形成していきたいと考えています。

【2. 体制】

委員長	荻野高弘
副委員長	下家賢
	岡田弘太郎
	吉田民瞳
	沼田汐里

【3. 平成 30 年度の活動報告】

- ・会員によるミーティングの開催
- ・Instagram による記事／写真投稿
- ・まちあるきイベントの検討

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	フロンティアTF	作成日	2020/3/10	記入者名	荻野高弘
委員長	荻野高弘	副委員長 (会計担当)	下家賢	副委員長	岡田弘太郎
副委員長	沼田汐里	副委員長			
年間 テーマ	建築・不動産領域に関わる若手の起業家ネットワークを構築。デベロッパーや建築事務所だけではない、新しい建築領域の働き方について考える。				
事業 計画 書	各回のキーワードについて、全4回のシンポジウムを実施する。委員長・副委員長で各回のモデレーターを担当し、外部ゲストをお呼びしてディスッションを行う。				
	場所は都内各所を巡回予定。会場費やゲストフィー、運営諸経費については、イベント参加者からの参加費合計額から支払うものとし、年間での黒字化を目指す。				
	各回の収録音声を元にしつつ、追加のコンテンツも制作し、書籍化を目指す。年間のシンポジウム内容についてより多くの方々に問いかけ、次世代の都市像についてHEADフロンティア経由で発信する起点を創る。				
収 支 予 算 書	収 入	シンポジウム参加費①(2000円×60名)			120,000
		シンポジウム参加費②(2000円×60名)			120,000
		シンポジウム参加費③(2000円×60名)			120,000
		シンポジウム参加費④(2000円×60名)			120,000
		スポンサー費(50000円/回)			200,000
		本会計からの補助			400,000
	収入合計				1,080,000
	支 出	会場+軽飲食費+動画撮影費①			100,000
		会場+軽飲食費+動画撮影費②			100,000
		会場+軽飲食費+動画撮影費③			100,000
		会場+軽飲食費+動画撮影費④			100,000
		ゲストフィー(各回4万円を想定)			200,000
		広告費、雑費合計			100,000
フリーペーパー作成費			100,000		
支出合計				800,000	
収 支				280,000	

HEAD 研究会、TF16「オープンプロセス TF」の 2019 年度における活動について、以下の通り報告いたします。

1. タスクフォースの目的

このタスクフォースは、職人不足や無断熟空き家ストックの増加、CO2 削減など現状の社会課題から、これから起こりうる複合的なムーブメントを予測し、少し先の未来のために一般のユーザーがわかりやすく参加しやすい建築やインフィルの技術・建材・構法を研究し、オープンにしていきます。

2. 体制

2019 年度の TF16 の運営は、HEAD 研究会の幹事・委員である以下のメンバーによって行われました。(敬称略)

委員長：嶋田洋平（株式会社らいおん建築事務所）
→途中交代）水上幸子（株式会社リノベリング）
副委員長：加藤愛子（Houzz Japan 株式会社）
副委員長：竹内昌義（株式会社みかんぐみ共同主催）
副委員長：富田興二（国立建築研究所）
副委員長：水上幸子（株式会社リノベリング）

3. 2019 年度活動内容

2019 年度は一時的に活動を休止しておりました。

4. 2020 年度の事業について

2020 年度は、TF16 の「職人不足や無断熟空き家ストックの増加、CO2 削減など現状の社会課題から、これから起こりうる複合的なムーブメントを予測し、少し先の未来のために一般のユーザーがわかりやすく参加しやすい建築やインフィルの技術・建材・構法を研究し、オープンにしていきます。」というテーマに今一度立ち返り、活動を進めていくことにいたします。

① これからの日本に必要であり普及させていきたいと考える文化を一般ユーザーに取り入れやすくするための様々な手法・技術・建材についての研究
リノベーション、断熱 DIY、エリアの価値を上げるための不動産利活用などのテーマを設定し、テーマごとにそれぞれの普及に貢献している、もしくはあったらいいのという手法・技術・建材について HEAD 研究会のメンバーを中心にヒアリング・調査を実施します。
今年度にある程度情報を集めた上で、来年度以降にそれらを情報として取りまとめて発表していくことで各文化のさらなる普及を目指すとともに、今後必要となるであろう手法・

技術・建材についても示唆することを目指します。

② PR 方法の確立（普及啓発のための素地づくり）

本 TF の活動がより効果的に一般ユーザーに情報発信されるよう、グループ内の HOUZZ さんの協力も得ながら、その方法確立を目指します。

③ 定例会議の開催

上記プロジェクトの推進のため、各地のメンバーでハングアウトの会議を定期的 to 実施します。

5. 来年度の TF16 運営体制について

2020 年度は、下記委員にて運営をしていく予定です。

委員長：水上幸子（株式会社リノベリング）

副委員長：加藤愛子（Houzz Japan 株式会社）

副委員長：竹内昌義（株式会社みかんぐみ共同主催）

副委員長：富田興二（国立建築研究所）

（以上）

令和2年度事業計画書・収支予算書

一般社団法人HEAD研究会

委員会名	オープンプロセスTF	作成日	2020/2/19	記入者名	水上幸子
委員長	水上幸子	副委員長	竹内昌義	副委員長	加藤愛子
		副委員長	富田興二	副委員長 (会計担当)	
年 間 テ ー マ	これからの日本に必要であり普及させていきたいと考える文化を一般ユーザーに取り入れやすくするための様々な手法・技術・建材についての研究				
事 業 計 画 書	①これからの日本に必要であり普及させていきたいと考える文化を一般ユーザーに取り入れやすくするための様々な手法・技術・建材についての研究 (HEADベストセレクションの新しい展開に向けた活動)				
	②PR方法の確立				
	③定例会議の実施				
収 支 予 算 書	収 入				
		収 入 合 計			0
	支 出				
		支 出 合 計			0
		収 支			0